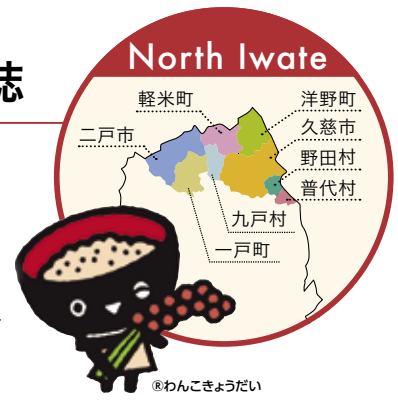
令和２年９月発行

2020 北いわての魅力を伝える広報誌

北いわて最前線



日本の文化を支える漆物語

2020年６月19日、二戸市・八幡平市が申請した「“奥南部”漆物語～安比川流域に受け継がれる伝統技術～」が、本県２件目の日本遺産※として文化庁から認定されました。日本民俗学の祖・柳田國男が、著書で“奥南部”と称した安比川流域の人々が、日本の文化を支える漆を大切にそして誇りに思い、伝統技術・漆文化を繋いできた物語が評価されたものです。

二戸市と八幡平市では今後、漆文化を生かした地域活性化に向け、地域の漆文化の調査研究や情報発信などに取り組むこととしています。

※本県の日本遺産認定第１号：「みちのくGOLD浪漫―黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる―」（岩手県陸前高田市・平泉町、宮城県気仙沼市・涌谷町・南三陸町、2019年度認定）

祝

二戸市・八幡平市の“奥南部”漆物語が「日本遺産」に認定！

浄法寺漆を守る活動

県北広域振興局では、生漆の増産に欠かせない漆苗木の生産講習会や原木資源を維持するための保育管理研修などを実施し、新たな漆資源の増大を図っています。

また、県民の皆様に地域資源としての浄法寺漆をより身近なものとしていただくため、二戸管内小学生を対象とした漆器の絵付け体験、二戸管内でのイベントや飲食店への漆器の貸出しを行い、浄法寺漆を広くPRしています。

contents

P.2 特集
北いわては、再生可能エネルギーの宝庫です

P.6 県北広域トピックス2020
復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる
希望郷いわて

P.8 新型コロナウイルス予防情報
新型コロナウイルスに負けない
新しい生活
［アンケート＆プレゼント］

特集

北いわては、再生可能エネルギーの宝庫です

STEP 1 再生可能エネルギーってなあに？どんな種類があるの？

地球にやさしいエネルギー

私たちがふだん使う電気の主なエネルギー源は石油や石炭です。しかし、これらの化石燃料は埋蔵量に限りがあり、いつかは枯渇すると言われています。また、燃焼時に発生する二酸化炭素が、地球温暖化の原因になることも懸念されています。

そこで注目されているのが、風力や太陽光（熱）、バイオマス（木材、家畜のふん尿、生ごみなどの有機ごみ）、地熱、水力など、「CO_2（二酸化炭素）を排出しない（増加させない）」「枯渇しない」「どこにでも存在する」の3つの大きな特徴を持つ「再生可能エネルギー」です。県北地域では再生可能エネルギーの導入に向けて、様々な取組が進められています。

岩手県も推進！

2011年に起きた東日本大震災で私たちは、長期にわたる停電や燃料不足に直面し、エネルギーの重要性を改めて認識しました。この経験を踏まえ県では、災害に強いまちづくり、地球環境に負荷をかけない低炭素社会を目指し、再生可能エネルギーの最大限の活用を推進しています。また、省エネルギーへの取組も含め、2020年度までに「再生可能エネルギーによる電力自給率」を35％まで向上させることを目指しています。

バイオマス

廃棄物を有効活用

バイオマスエネルギーとは、化石燃料以外の動植物に由来するエネルギー資源のことです。木質廃材や食品廃棄物、家畜の排泄物などの有機ごみを直接燃やし、その熱を利用して蒸気でタービンを回し発電します。燃焼によりCO_2は発生しますが、バイオマスの大元である植物は成長過程で同じ量のCO_2を吸収することから、大気中のCO_2に影響を与えない性質を持っています。県土の約8割が森林である岩手県にとって、木質バイオマスは持続可能なエネルギーの一つであり、林業や木材産業の振興につながることも期待されています。また、岩手県は全国トップクラスの畜産県でもあり、家畜の排泄物の発酵ガスを利用した発電と熱供給も行われています。

太陽光

様々な規模で設置が可能

太陽光が太陽電池に当たると、電池を構成している半導体の電子が動き電気が発生します。これが太陽光発電の仕組みです。私たちがよく目にするソーラーパネルは、この太陽電池をたくさんつなげたものです。一般住宅用の3～4kWのものから1000kWを超えるメガソーラーまで、様々な規模で設置することができます。太陽エネルギーはとても強く、地球全体に降り注ぐ太陽光を全て電気に変換できたなら、世界の年間消費エネルギーをたった1時間で賄うことができるといわれています。岩手県には、年間を通して日照条件がよく、雪の影響も少ない県央から県南にかけての沿岸沿いなど、太陽光発電に適した地域が広く分布しています。

風　力

ウィンドファームも続々誕生

風力発電は、ブレードと呼ばれる羽が風を受けて回転し、その回転が動力伝達軸を通じて発電機を回し電気を起こします。風力発電には平均6m／秒以上の安定した風力が必要とされていますが、岩手県には風況に恵まれた地域が多く、大規模な風力発電施設（ウィンドファーム）も建設されています。その一方で、風力発電施設は高さ100mに達するものもあり、さらに風力発電の適地には野鳥などの希少動物の生息地と重なる所もあることから、環境や景観に配慮した開発が求められています。風力発電は風の状況による出力変動が課題でしたが、最近では蓄電池を併設するなど出力を平準化するシステムも開発されています。

水　力

水の流れを利用して発電

水力発電は、水を高いところから低いところへと勢いよく流し、その中に発電用のポンプ水車を設置し、水車の回転で発電機を動かすことで発電を行います。河川や農業用水路などに水車を設置する流れ込み方式や、ダムに貯めた水を放流することで発電する貯水池方式、調整池式、揚水式などがあります。水資源が豊富な岩手県では昔から多くの水力発電所がつくられており、現在でも県内で発電される多くの電力量を占めています。

地　熱

岩手は地熱発電のパイオニア

地熱資源は、マグマの熱で高温になった地下1000～3000mの地下深部に存在します。地表に降った雨や雪は地下深部に浸透し高温の流体（地熱流体）となり、地熱貯留層を形作ります。地熱発電は、地熱貯留層から取り出した地熱流体でタービンを回転させ発電します。岩手県は、地熱発電において日本のパイオニア的存在です。国内初の地熱発電所である松川地熱発電所と葛根田地熱発電所と松尾八幡平地熱発電所の合計出力111MWは、国内3位の規模を誇ります。

STEP 2 再生可能エネルギーを巡る世界・日本・岩手の動向

世界が目指す「脱炭素社会」。そのカギは再生可能エネルギー

地球温暖化をはじめとする気候変動問題は、世界が足並みをそろえて取り組むべき問題です。2015年には、パリで開催された「国連気候変動枠組条約締約国会議」において、新しい国際枠組みとして「パリ協定」が採択され、2020年以降、各国が温室効果ガスの排出削減等に取り組むことが決まりました。日本でも、「2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指す」「今世紀後半のできるだけ早期に脱炭素社会の実現を目指す」などの目標を掲げています。**岩手県でも2019年11月、「2050年温室効果ガス排出量の実質ゼロ※」を宣言しました。**達成のための主な取組として、再生可能エネルギーの有効活用が挙げられています。

※排出量の実質ゼロとは
CO_2などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成すること

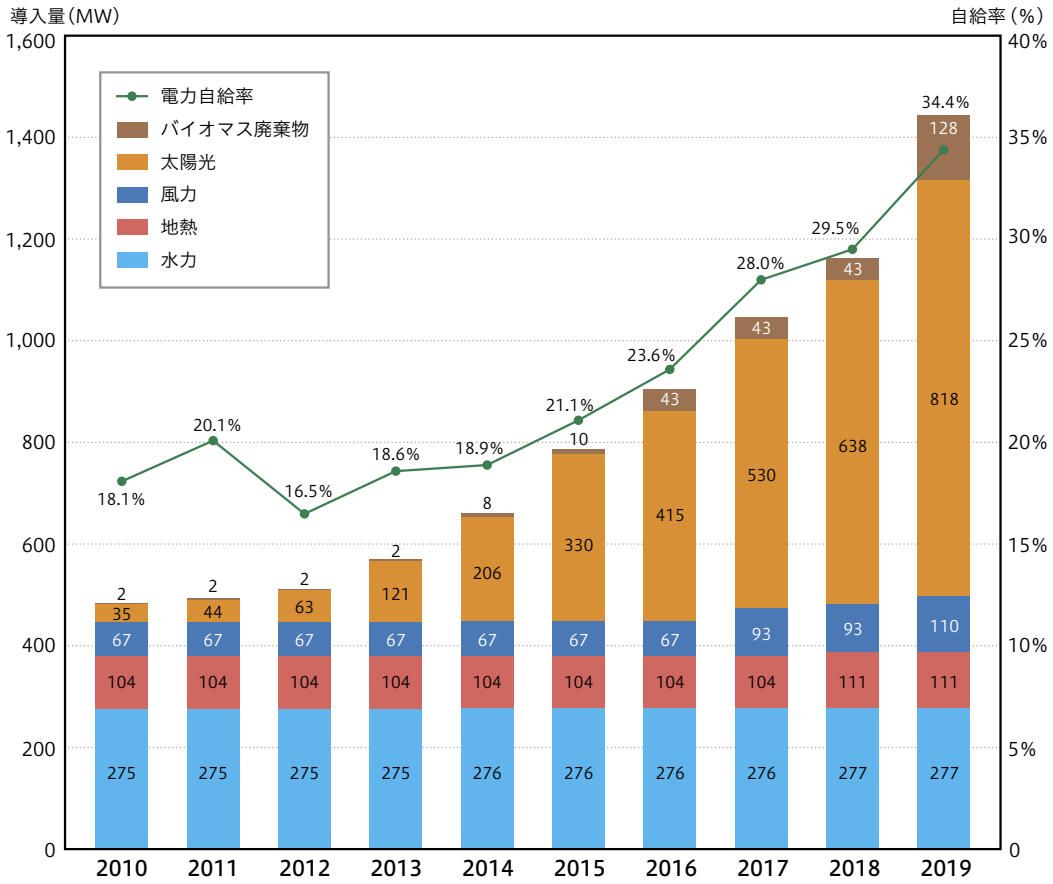
岩手県の再生可能エネルギーのポテンシャルは全国2位

豊かな自然に恵まれた岩手県は、再生可能エネルギーの宝庫でもあります。国の調査によると、岩手県の再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは全国2位です。風況についても北上高地を中心に良好なポイントが多いとされており、国内初の地熱発電所である松川地熱発電所や多くの水力発電所など、開発が進められてきました。

北いわての豊富な再生可能エネルギー

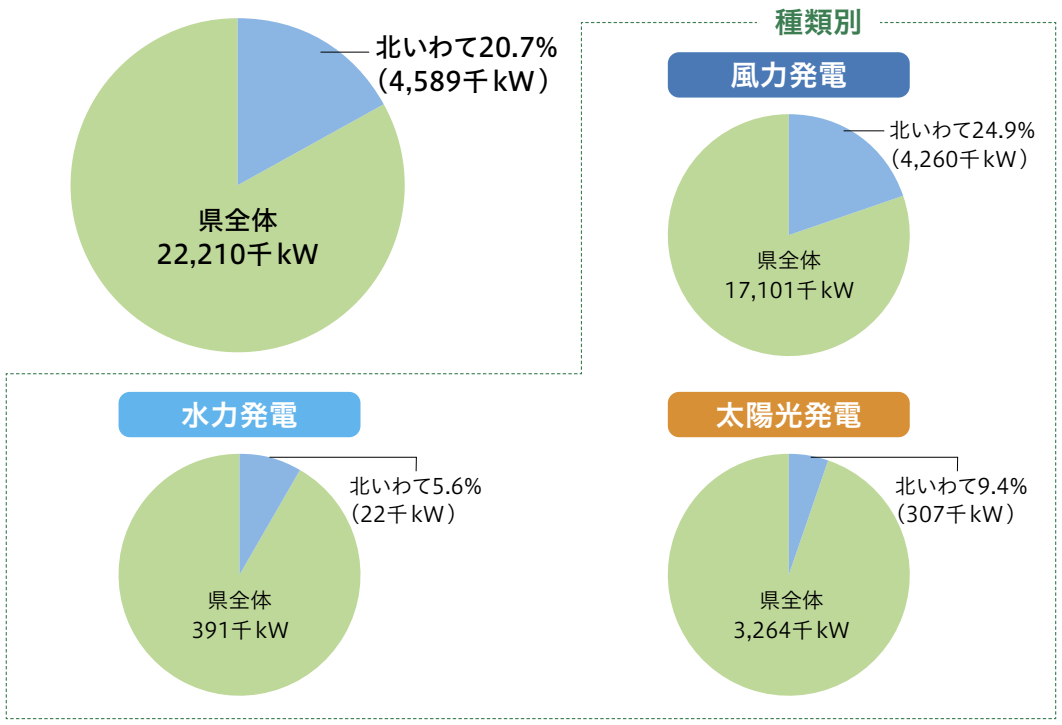
北いわてでも、気候や地形などの特性を生かした豊富な再生可能エネルギーを利用し、バイオマス発電（木質・畜産糞尿）、太陽光発電（事業用・住宅用）、風力発電、水力発電などが行われています。環境省の「平成28年度再生可能エネルギーに関するゾーニング基礎情報の整備・公開等及び再生可能エネルギー設備導入に係る実績調査に関する委託業務報告書」を基に計算すると、北いわての再生可能エネルギーの導入ポテンシャル量は458万9千kWになり、岩手県全体の20.7%に相当する量となっています。

岩手県における再生可能エネルギーの導入量と電力自給率



「岩手県における再生可能エネルギー導入想定量と実績」を基に、「いわてわんこ節電所ホームページ（https://www.co2-diet.com/saiene/）を参考に作成

北いわて（県北広域振興局管内）の再生可能エネルギーの県全体に占める割合

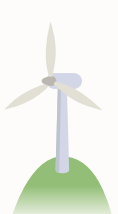


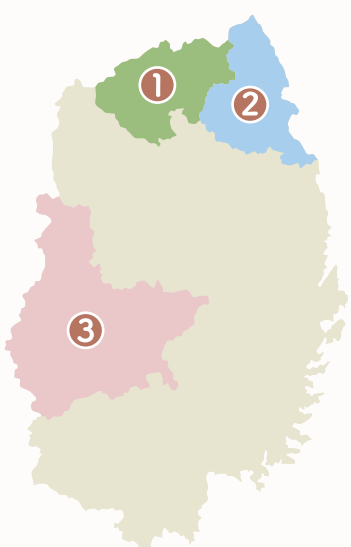
※環境省の平成28年度再生可能エネルギーに関するゾーニング基礎情報の整備・公開等及び再生可能エネルギー設備導入に係る実績調査に関する委託業務報告書を基に、県北広域振興局が計算したものです。
※北いわての面積は、県全体の14.3%を占めます。

こくっちコラム

風力発電導入構想について

岩手県では、岩手県地球温暖化対策実行計画における再生可能エネルギーの導入目標達成に向け、風力発電の導入を一層促進していくため、本県の風力発電の導入可能性が高い3地域を示した「風力発電導入構想」を2015年3月に策定しました。





❶ **二戸地域**
稲庭高原周辺地区（二戸市浄法寺町）
折爪岳北側地区（二戸市と軽米町の境）

❷ **久慈地域**
山形基幹牧場周辺地区（久慈市山形町と九戸村の境）

❸ **花巻西部地域**
中山峠周辺地区（花巻市、北上市、雫石町、紫波町、西和賀町の境）

STEP 3 北いわてでは、こんな取組をしています！

久慈市

2017年、市内の民間企業4社が出資し、「久慈地域エネルギー(株)」を設立しました。2018年には久慈市及び市内の民間企業1社が資本参加し、岩手県初の自治体新電力となりました。久慈市では、2050年までに市の保有する施設の使用電力を100%再生可能エネルギーにすることを目指しており、その第一弾として、2020年4月、市内の滝ダム発電所で発電された電気を購入し久慈市文化会館アンバーホールへの供給を開始しました。

また、地域の製材所等から出るバーク(樹皮)を使いバイオマス熱供給事業を行う「久慈バイオマスエネルギー(株)」が、再生可能エネルギーの利活用に積極的に取り組み、低炭素社会の実現や地域活性化に貢献したとして、数々の賞を受賞しました。

洋野町

東日本大震災以降、洋野町は再生可能エネルギーの導入促進を主要施策として位置付けており、2014年に「洋野町再生可能エネルギービジョン」を策定し、地域資源を活かしたエネルギー自給率の向上や地域産業の活性化に取り組んでいます。

洋上風力発電では、事業可能性調査により得られた課題を基に、導入指針となるガイドラインを2019年に整備し、適正円滑な事業導入を図ってきました。また、町内11か所で民間事業者によるメガソーラーの運用・整備も進められ、出力規模は約104MWとなる見込みです。

2020年度からは家庭用蓄電池設置に要する助成事業をスタートし、一層の再生可能エネルギーの普及と脱炭素社会の実現に向けた取組を進めています。

普代村

普代村を含む北岩手9市町村で構成される「北いわて循環共生圏」は、神奈川県横浜市と「再生可能エネルギーの供給に関する連携協定」を締結し、低炭素社会の実現と再生可能エネルギーの利活用を促進しています。2020年2月、横浜市の行う海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン事業」の一環として、普代村の養殖ワカメと養殖コンブのブルーカーボン(海洋生態系が吸収・固定するCO_2のこと)が、取引可能な権利(クレジット)として認証されました。

このCO₂を買い取ることで、買取側は自らのCO₂排出量と相殺することが可能となります(カーボン・オフセット制度)。普代村が受け取る販売代金は、海洋に関する温暖化対策や環境保全、環境啓発の活動に活用されます。

野田村

2016年に営業を開始した「(株)野田バイオパワーJP」では、野田村や周辺地域で安定的に入手できる未利用材やバーク(樹皮)、剪定枝や間伐材などの木質バイオマスに加え、東南アジアなどから久慈港へと運ばれてくる、アブラヤシの実からパーム油を搾った後の種殻(PKS=Palm Kernel Shell)を燃料に使いバイオマス発電を行っています。

野田村ではこのバイオマス発電所でつくられた電気を購入し、役場庁舎をはじめ小学校や中学校、学校給食センターや観光物産館ぱあぷるなど村内の主な公共施設で活用しています。バイオマス電気であることを示したプレートを表示するなどして、環境への配慮や省エネに対する意識の醸成も図っています。

再生可能エネルギーを軸とした広域連携で実現

「北岩手循環共生圏」

北岩手循環共生圏 県北9市町村が「二酸化炭素排出量実質ゼロ」を宣言

県北広域振興局管内の8市町村(久慈市・二戸市・普代村・軽米町・野田村・九戸村・洋野町・一戸町)と葛巻町は、2019年2月、地方から都市部への再生可能エネルギーの供給をはじめ、人やもの、技術の交流を促進し、地域の活性化や地方創生へとつなげることを目的に、青森県横浜町、福島県会津若松市・郡山市12月、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」を共同で発表しました。これは、再生可能エネルギーを軸として、脱炭素社会と持続可能な地域社会の実現を目指すものです。

循環の輪を広げた「循環共生圏」構築を目指して

北岩手の9市町村が同時に目指すのが、限られた資源を有効に活用し、廃棄物や有害物質をなるべく出さず、環境への負荷をなるべく出さず、環境への負荷を

関係者インタビュー

久慈市企業立地港湾部
企業誘致・雇用・港湾・エネルギー
部長 **嵯峨 孝和**さん

久慈市は昨年、市の保有施設の使用電力を再生可能エネルギーで100%まかなうことを目指す「再エネ100宣言 RE Act-ion」に加盟しました。その皮切りとして今年4月、市内の滝ダムの水力発電で得られた電気をアンバーホールに供給しました。8月までに、市内8施設で使う電力を再生可能エネルギーに切り替えています。省エネを推し進め、同時に使用する電力を再エネ由来のものにしていくことで、2050年には使用電力の再エネ100%を目指しています。

また、現在開発を進めているのが洋上風力発電です。3年におよぶ、立地や各種条件の調査も今年が最終年となります。地元の漁業者や誘致企業との話し合いを行いながら、久慈沖合での実現を目指しているところです。実現すれば、事業に関わる雇用や久慈港の活用、人や技術の交流など、様々な波及効果も期待できます。

二戸市

2001年に二戸市に誕生した「稲庭高原風力発電所」は、県営として初めての風力発電所です。樹木の伐採を避けるために道路が整備された牧草地を建設地に選び、風車の羽根に塗装を施して鳥の衝突を防ぐなど、周辺環境に配慮したつくりとなっています。2015年に策定された「岩手県風力発電導入構想」では、同市の折爪岳北側地区と稲庭高原周辺地区が導入可能性の高い地域として選定されました。自然環境や景観、希少動植物に及ぼす影響に配慮しながら風力発電の普及を推進していきます。

また、太陽光発電やバイオマス発電のほか、地域資源を活用した新しいエネルギーの検討を進め、多様なエネルギー導入による魅力あるまちづくりに取り組みます。

軽米町

軽米町では、2015年に「再生可能エネルギー発電の促進による農山村活性化計画」を策定しました。豊かな自然環境を保全しながら、地域の資源を生かした再生可能エネルギーの活用促進と農林漁業の振興、地域活性化に取り組んでいます。

2016年には、鶏ふんを燃料にしたバイオマス発電所「十文字チキンカンパニーバイオマス発電所」が稼働し、一般家庭の約1万世帯分（年間）を賄う電力を生み出しています。また町内5か所で太陽光発電所の整備も進められ、2019年7月には「軽米西ソーラー」、同年12月には「軽米東ソーラー」が完成しました。造成工事を極小化し土地なりにパネルを敷設、自然環境に配慮した設計で、山間に設置したメガソーラーとしては国内最大規模を誇ります。

九戸村

公共施設への太陽光パネルの設置や一般住宅への太陽光パネルの設置補助、ごみ減量化対策への補助（コンポスト購入）など既存の施策を継続して実施するとともに、2020年度から建設が開始された風力発電事業への協力や管理事務所の誘致活動にも積極的に取り組んでいきます。

また、2030年度に温室効果ガスの排出量を26％削減（2013年度比）するという目標を達成するため、脱炭素社会づくりに貢献する製品への買い替え・サービスの利用・ライフスタイルの選択など「賢い選択」をしていこうとする環境省の取組「クールチョイス」も積極的に推進していきます。

一戸町

一戸町では、豊かな森林資源と風況に恵まれた地形を生かし、木質バイオマス発電や風力発電などの整備を進めています。

2015年に設立された「御所野縄文電力」では、「一戸フォレストパワー御所野縄文発電所」で地域の木材を活用して発電したバイオマス電気、同じく町内の「大志田ダム水力発電所」で発電した電気を主に供給し、電力の地産地消を推進しています。

また2018年1月には、高森高原に大型風車11基を備えた「高森高原風力発電所」が完成しました。県内初の蓄電池を備えた大規模発電所で、「星風の丘」の愛称で地域の皆さんにも親しまれています。

一戸町の役場庁舎や町立学校の校舎はこれら地元産電力を利用しています。他の施設についても、順次切り替えを進めています。

とともに、神奈川県横浜市とそれぞれ再生可能エネルギーの活用を通じた連携協定を締結しました。

また、県北広域振興局管内の8市町村と葛巻町は2019年

できるだけ減らし、持続可能な形で循環させながら利用していく「循環型社会」の構築です。地域内で循環が可能な資源はなるべく地域内で循環させ、それが難しい場合は循環の輪を大きく（広域化）して共生していこうという考え方です。

この取組はまだ始まったばかりですが、地球温暖化防止や環境保護、地域や地域経済の活性化、雇用の促進、都市部との連携など、再生可能エネルギーを通じた様々な可能性が期待されており、県北広域振興局では、これらの取組と連携しながら、再生可能エネルギー資源を生かした地域づくりに取り組んでいます。

株式会社二戸森林資源
株式会社二戸フォレストパワー
御所野縄文電力株式会社
代表取締役　**小林　直人**さん

弊社では、「二戸森林資源」でバイオマスチップを製造し、そのチップを使って「二戸フォレストパワー」でバイオマス発電を行い、「御所野縄文電力」を通してその電気を販売しています。

チップの材料は主に、二戸町内の山林から切り出される建築用資材の未使用材や、地元の製材所から出る端材などです。バイオマス発電で生まれた電気は、二戸町役場をはじめ町内の小中学校や公民館などの公共施設や、近隣の民間企業、一般家庭などに供給しています。地元でつくった電気を地元で使う「電気の地産地消」を目指して事業を行っています。

また一部の電気は、「再生可能エネルギーの供給に関する連携協定」を締結している横浜市や、関東圏の民間企業にも供給しています。今後は二戸町とも連携しながら、一般住宅への供給をさらに推し進めていく予定です。

県北広域
トピックス
2020

復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる 希望郷いわて

県北地域では地域の特性を生かしながら、農林水産業や企業の支援、まちづくりの活動など、魅力あるふるさとを創造していくため、いわて県民計画（2019～2028）地域振興プランに基づく取組を進めています。

芸術活動を通じた障がい者の生きがいづくりと共生社会の創造へ

久慈地域では、久慈地域障害者自立支援協議会等が連携し、障がい者アートの推進に取り組んでいます。同協議会では2017年度は、障害者支援施設等の職員を対象とした障がい者アート研修会や、障がい者の方に創作活動を体験してもらうための講師派遣を行いました。また、2018年度からは、これらの事業に加えて公共施設での作品展も実施し、障がい者の創作意欲向上や、地域住民の障がいへの理解を促す機会となっています。

障がい者の芸術活動は、余暇活動の充実や生きがいづくりのほか、社会参加の促進、潜在的な能力の発揮など、様々な効果が期待されることから、県では、障がい者アートを通じて、障がいの有無にとらわれず個々を認め合い、共に生きる社会を目指しています。

感性豊かな展示品が並ぶ

講師を派遣し、共に活動を行う

鮮やかな色が目を引く作品

お問い合わせ先
県北広域振興局
保健福祉環境部 福祉課
TEL.0194-53-4982

カシオペア地域の魅力発見！ 注目の話題を発信するラジオ番組

二戸市から二戸地域の情報を発信しているカシオペアFMでは、毎週木曜日午後1時から30分間、県北広域振興局が提供するラジオ番組「カシオペア連邦いいね！発見！」を放送しています。カシオペア地域の食や産業、伝統文化、観光スポット、イベントなど、様々なテーマの中から注目の話題を採り上げ、関係者のインタビューを交えて紹介する番組です。

担当パーソナリティーの高下タカヒロさんは「カシオペア地域にはたくさんの『いいね！』があります。リスナーの方が気付かなかった地域の優れた点や興味深いこと、おもしろさを発信していきたいです。コロナ禍にも負けずに頑張る方々のお話も反響がありますよ」と話します。

採り上げてほしいテーマや取材の依頼などがありましたら、二戸地域振興センターまで御連絡ください。

担当パーソナリティー
高下タカヒロさん

二戸地域の発見や驚きをリポート

番組のロゴ

お問い合わせ先
県北広域振興局 二戸地域振興センター
TEL.0195-23-9205

農業と福祉、双方にメリットを。広げよう、農福連携の輪

県北広域振興局と久慈地方農業農村活性化推進協議会では、農業の人手不足解消と障がい者就労支援事業所の就労機会の確保のため、県北広域振興局と久慈地方農業農村活性化推進協議会では、障がい者に農作業の一部を担ってもらう「農福連携」を推進しています。

2019年度は、相互を知る機会として、久慈管内の園芸農家の皆さんに障がい者の方が実際に作業を行っている様子を見てもらう見学会や農福連携先進地の実状について学ぶ研修会を開催しました。2020年度は、複数の品目を組み合わせて、障がい者就労支援事業所が通年で農作業を請け負う際の留意点等をまとめています。

農福連携の取組は全国で広がっており、久慈地域でも少しずつ普及しています。ほうれんそうハウスの後片づけ、菌床しいたけの水やり、ミニトマトのパック詰めなど、いろいろな作業が行われています。農福連携を始めたい方は、県北広域振興局農政部や久慈農業改良普及センターに御相談ください。

収穫の終わったほうれんそうハウスでの片づけ作業

ミニトマトを計量しながらパック詰め

お問い合わせ先
県北広域振興局
農政部 農業振興課
TEL.0194-53-4983

付加価値の高いギンザケの産地化に向けた取組

岩手県沿岸の秋サケ漁の記録的な不振が続く中、久慈市漁業協同組合では2019年度からギンザケの海面養殖試験に取り組んでいます。他産地の生鮮ギンザケが品薄となる8月中旬の出荷が可能な当地域の強みを生かして他産地との差別化を図り、付加価値の高い高鮮度のギンザケの産地化を目指します。

養殖試験は3年計画で、湾口防波堤の整備によって生じる波の穏やかな海域を養殖漁場として活用します。2年目の今季は、稚魚から越冬させる通年試験で生産された約40トンが水揚げされ、養殖試験は順調に経過しています。7月には市内で試食会が開かれ、漁業関係者からは味と品質を高く評価する声が聞かれました。来季は今季の約2倍以上の水揚げを目指しています。

県では養殖試験の指導等を行っており、「つくり育てる漁業」の積極的な推進が、地域の活性化につながることを期待しています。

ボリューム満点のお刺身

種苗投入。運搬用水は淡水で、混合水で30分ほど馴致する

浅くした手前部分から大ダモですくい取る

お問い合わせ先

県北広域振興局 水産部
TEL.0194-53-4985

身近な河川の状況を確認できる簡易型河川監視カメラを設置

近年の大雨洪水災害を踏まえ、防災体制の強化のため、簡易型河川監視カメラを県内河川114箇所、県北管内では17箇所（久慈地区13箇所、二戸地区4箇所）に設置し、6月末から運用を開始しています。

この簡易型河川監視カメラは、中小河川も含めた全国の河川の画像情報を一層充実させ、リアリティーのある洪水状況を住民に提供し適切な避難判断を促すことを目的に、国土交通省が民間企業と共同開発したもので、10分ごとに静止画を更新します。

画像は「岩手県河川情報システム」、「川の水位情報」（一般財団法人河川情報センター）の両ウェブサイトで確認できます。水位の観測データも併せて活用しながら身近な河川の状況を把握し、迅速で確実な避難行動に役立ててください。

久慈川（八日町）河川監視カメラ設置状況

岩手県河川情報システムのカメラ画像

川の水位情報
k.river.go.jp/

岩手県河川情報システム
kasen.pref.iwate.jp/

お問い合わせ先

県北広域振興局
土木部 河川港湾課
TEL.0194-53-4990

トップブランドの「岩手木炭」を一大産地の県北地域からお届け

岩手県の2018年の木炭生産量は2682tで、全国一のシェアを誇っています。中でも県北地域は、県内生産量の89%を占める一大生産地です。2018年8月には、国が特色ある産品を国が地域ブランドとして保護する「地理的表示（GI）保護制度」に、「岩手木炭」が木炭としては国内で初めて登録されました。

久慈市山形町で育林から伐採、木炭生産まで一貫して行っている有限会社谷地林業の代表取締役社長の谷地譲さんは「県北地域の木炭生産者は、連携しながら勉強交流会や販売促進の取組を行い、付加価値の高い木炭の生産や安定経営を目指しています。この地域において木炭生産は文化であり、人々の暮らしを支えてきたという自負もあります。炭火を囲んでの交流など、地域の皆さんにもどんどん炭に親しんでいただきたいです」と話します。

岩手の木炭は着火性能が高いことが特徴

岩手木炭パッケージ

断面は美しく、菊の花のように見える

お問い合わせ先

県北広域振興局 林務部
TEL.0194-53-4984

新型コロナウイルスに負けない 新しい生活

新型コロナウイルスの影響が長期化し、これまで以上に一人一人の予防対策が重要になっています。ここでは、どんなことに気をつけて暮らせば良いのか、ウイルスに負けない「新しい生活様式」とはどのようなものかをお知らせします。

★北いわて式・暮らし実践五か条★

- **き** ちんと マスクを着けよう
- **た** いおん測定など 毎朝健康チェック
- **い** わて県外から 来た人に思いやりを
- **わ** たしもあなたも 三密回避
- **て** あらい消毒 しっかりと

★新しい生活はこんなイメージです★

働き方

- テレワークやローテーション勤務を行う。
- 会議や名刺交換はオンラインで行う。
- 対面での打ち合わせは換気とマスクを心がける。

食事

- 大皿は避けて、料理は個々に取り分ける。
- 対面ではなく横並びで座る。
- グラスなどでの回し飲みは避ける。

娯楽・スポーツ等

- 公園は空いた時間に利用する。
- ジョギングは少人数で行う。
- すれ違う時は距離をとる。

公共交通機関の利用

- 混んでいる時間は避ける。
- 徒歩や自転車を積極的に利用する。
- 会話は控えめにする。

買い物

- １人又は少人数で空いた時間に行く。
- 商品等への接触は控えめにする。
- 電子決済を利用する。
- レジに並ぶ時は前後にスペースをとる。

★一人一人の基本的感染対策★

《感染防止の３つの基本》

❶身体的距離の確保 ❷マスクの着用 ❸手洗い

- 「3密」を回避する（密集、密接、密閉）。
- 人との間隔は、できるだけ２m（最低１m）空ける。会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- 咳エチケットの徹底。外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。夏場は、熱中症に十分注意する。
- 手洗いは 30 秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- 人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替えてシャワーを浴びる。
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に）。
- 一人一人の健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行。
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合は無理せず自宅で療養する。

※高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

読者プレゼント ｜ アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で10名様にプレゼント!!

漆の里のうるし蜂蜜

原材料名：国産はちみつ（ウルシ）
内容量：350ｇ

６月下旬から７月上旬のわずかな期間に、蜂たちが漆の花から集めた「うるし蜂蜜」です。やさしく上品な口当たりのよさなど、貴重な自然の味わいをお楽しみください。

「北いわて最前線」を最後までお読みいただき、ありがとうございます。
今後より一層、誌面を充実させるため、読者の皆様の「声」をお聴かせください。

1 今回の記事で興味を持ったものは何ですか？（番号で回答、複数回答可）
　①表紙　二戸市・八幡平市の"奥南部"漆物語が「日本遺産」に認定！
　②特集　北いわては、再生エネルギーの宝庫です
　③県北広域トピックス2020
　④新型コロナウイルスに負けない 新しい生活
2 本紙への御意見・御要望や、今後掲載してほしい内容がありましたら、御自由にお書きください。
3 県北広域振興局に対する御意見・御要望がありましたら、御自由にお書きください。

応募方法

［送り先］はがき 〒028-8042 久慈市八日町1-1
県北広域振興局「北いわて最前線アンケート」係
FAX 0194-53-1720　電子メール BK0001@pref.iwate.jp
［締　切］令和２年11月30日（月）消印有効

※ 回答は、右の二次元バーコードを読み込んで応募フォームから御応募ください。なお、はがき・ＦＡＸでも御応募いただけますので、住所・氏名・年齢・性別・電話番号をお書きの上、お送りください。

スマートフォン用

岩手県 県北広域振興局全世帯配布広報誌（令和２年９月発行）

編集・発行　県北広域振興局経営企画部
〒028-8042 岩手県久慈市八日町1-1 TEL：0194-53-4981㈹ FAX：0194-53-1720 E-mail：BK0001@pref.iwate.jp